

スポーツで流すのとは違う汗

ここに記すのは「校長メッセージ」ですが、私のメッセージなど足下（あしもと）にも及ばない素敵なメッセージが私の元に届きました。人はこういう経験をを通して成長していくんだなあと改めて感じさせてくれる文章です。

瑞浪北中では、明日の予定家庭学習を記録する学習計画ノートに、必ずしも文章を書く必要はないとしています。そこに書かれていた文章ですので、書き手の生徒にとって大きな意味をもつできごとだったのでしょうか。内容も、「書く」という事実も、まさに主体的だと言えます。その素敵な文章は次の通りです

「今日家に帰るとものすごい雨と雷が来ました。雨は一時間ほどで終わり、家は停電だけですみました。

しかし、自分の家の近くにある小さな店は水につかって大変でした。小さいときからずっと自分はお世話になっていたので、自分の安全を確認した後、その店の泥を運んで手伝うことができました。とても重くて大変でした。そして、たくさん汗をかきました。

その汗は今まで自分がスポーツをしておいてきた汗とは別物で、何だかとてもスカツとするような汗でした。たぶん自分から動いて、いつも世話になっている地域の人たちの力になれたかはわからないけど、自分自身とてもよい経験になりました。

これからは自分だけを見るのではなく、周りに目配り、気配りのできる大きな人間になりたいと思います。また、これから地域の行事に参加して地域が活気であふれるようにしたいと思います。」

自分でやろうと判断した泥運び。いつもかくのとは別物の汗。自分の意思で事実と思いを書き綴（つづ）った文章。どれもすばらしい主体的な姿です。こういう経験を通して、人は自分の可能性を広げていきます。スポーツで流す汗、そしてそれとはひと味違う優しさの汗。この二つの汗が人間を大きくするように、私は思います。

この素敵な文章を書いたのは三年生のA・S君。スポーツマンとしても、地域の一員としても、これからの彼の活躍が楽しみでです。

（七月二十二日 記）